り，委員のうち３～４名程度は一般公募によることとし，５月の連休明けまで募集を行っています。今回の基本計画策定の議論においても，公募によって選ばれた委員の方々は，消費者あるいは農業者の立場から，議論に大きな貢献をいただいたところです。ご関心のある方は，是非一度，農水省のホームページをご覧ください（http://www.maff.go.jp/）

書評・校庭のくだもの

野外観察ハンドブック

校庭のくだもの

鈴木邦彦・岩瀬徹／著

全国農村教育協会

定価 2,000 円（税込）

全農教の好評シリーズ「野外観察ハンドブック・校庭シリーズ」の 10 巻目「校庭のくだもの」が刊行された。「校庭にくだもの？」といぶかる向きもおありだろうが、「まえがき」によれば…

> 校庭に果樹を作る例はまれでしょうが、いろいろな「くだもの」は毎日のように口にしています。いうまでもなく、それらはすべて植物が生産したものです。その「くだもの」がどんな植物によるものなのか、食べているのは果実なのか、あるいはそれ以外の部分なのかなどを、日頃考えることは少ないしそれを知る機会もあまりありません。しかも近年は外来の「くだもの」もいっそう増え、店頭で見る「くだもの」は多種多様になっています。本書の作成にあたっては、果樹栽培に縁のない人でも「くだもの」の種類や由来、果樹の形やくらしなどが理解できることをねらいとしました。

ということで、なるほど、本書を読んでみると、くだものに関して「知っているようで知らなかったこと」、「むかし習ったような気がするが、とっくに忘れてしまっていたこと」、はては「何となく自分流に都合よく解釈していたこと」などが白日のもとにさらされ、次々と目のうろこが落ちてゆく、そんな気持ちの良い体験をされること請合いである。

果樹を植物の一種ととらえ、そこから特有の「くらし」と「かたち」を見てゆく…校庭シリーズに一貫して流れている態度で、これこそが、シリーズを「ただの図鑑」でない、知的好奇心を刺激する発見に満ちたものにしている。本書「校庭のくだもの」においてもそれは同様であって、第１部くだもののくらしとかたちでは、・花から果実、種子へ、・くだもののつくり、・花芽のつき方、・品種と品種改良など興味深いテーマがわかりやすく解説されている。

第２部図鑑編ではリンゴ、ミカンなどの一般果樹からトロピカルフルーツ、ベリー類まで 120 種が掲載されている。国内はもちろん、外国からの輸入種も多数紹介されていて、消費者の参考になるだろう。また果樹農家、とりわけ新しい果樹の導入、特産化を考えている農家には多くのヒントを与えてくれるに違いない。

シリーズの書名に「校庭」と付いているのは、学校を意識してのことであろう。しかし、テーマや切り口の斬新さ、質・量ともに豊かな内容など、どれをとっても学校という領域に限定するのはいかにももったいない話で、広く一般消費者から果樹農家、また果樹分野への進出を考えている人達に、ぜひおすすめしたい一冊である。

全国農村教育協会
電話　03－3839－9160
http://www.zennokyo.co.jp

（伊東）